

プロジェクト リース

項目 本日の審議事項

**本日の審議事項**

1. 2016 年 8 月に公表した中期運営方針では、我が国の会計基準を国際的に整合性のあるものとするための取組みの一環としてリース会計を掲げており、これを踏まえて、第 375 回企業会計基準委員会（2017 年 12 月 20 日開催）において我が国におけるリースに関する会計基準の開発に着手するか否かについて検討することが承認され、第 387 回企業会計基準委員会（2018 年 6 月 21 日開催）及び第 78 回リース会計専門委員会（2018 年 6 月 8 日開催）より検討を開始している。
2. 第 387 回企業会計基準委員会及び第 78 回リース会計専門委員会では、リースに関する会計基準の開発に着手するか否かを判断するにあたり、「我が国における会計基準の開発に関する予備的分析」（以下「予備的分析」という。）について検討を行った。
3. その後、第 388 回企業会計基準委員会（2018 年 7 月 6 日開催）及び第 79 回リース会計専門委員会（2018 年 6 月 26 日開催）から、予備的分析に記載された事項についてより理解を深めるために、以下の検討を行っている。
  - すべてのリースに係る資産及び負債の認識（未履行契約との関係を含む。）
  - IFRS 第 16 号「リース」及び Topic 842 の基本モデルの確認（リースに係る費用認識）及び損益計算書に与える影響の分析
  - リースの識別及びリースとサービスの区分
  - リース期間
  - 基準適用に係る財務諸表作成者のコスト
  - 重要性に関する事項
  - IFRS 第 16 号の早期適用企業の財務諸表の影響分析
4. 第 82 回リース会計専門委員会（平成 30 年 9 月 6 日開催）では、予備的分析に記載された事項のうち、財務諸表利用者のニーズについて、より理解を深めるため、クレジット・アナリストが信用格付を行うにあたり、また、セルサイド・アナリストが株式の評価を行うにあたり、オペレーティング・リースに関して具体的にどのようなニーズがあるのかご説明頂き質疑応答を行った。

## 審議事項(4)-1

5. 本日は、参考人の説明及び質疑応答の内容を報告する。
  - 株式会社格付投資情報センター 格付本部 チーフアナリスト 後藤潤氏（リース会計専門委員）による説明資料（審議事項(4)-2-1）
  - 大和証券株式会社 エクイティ調査部担当部長 チーフアナリスト 津田和徳氏（参考人）による説明資料（審議事項(4)-2-2）
  - 参考人等聴取（第 82 回リース会計専門委員会）における質疑応答（審議事項(4)-2-3）
6. また、上記に関連して、格付機関においてリース会計に関する財務諸表の調整がどのように行われているかについて事務局より説明する。
  - 格付機関における財務諸表の調整（審議事項(4)-3）
7. なお、第 81 回リース会計専門委員会（平成 30 年 8 月 23 日開催）で聞かれた意見については審議事項(4)-4 に、第 82 回リース会計専門委員会で聞かれた意見（参考人聴取における質疑応答（審議事項(4)-2-3）を除く。）については審議事項(4)-5 に記載している。また、第 391 回企業会計基準委員会（平成 30 年 8 月 27 日開催）で聞かれた意見については、審議事項(4)-6 に記載している。

以 上